

288 二一十年一に結集せよ!

。葛西工反戦派教師に対する“懲免”  
 処分を都教委は撤回せよ!  
 高校生に対する処分を許すな!  
 帝国主義的再編とソート・パージに抗し  
 我々の戦列を強めよ!

全都の労働者、学生諸君! 我々教師、学生に対して国家権力  
 や学校当局は過酷な弾圧がかけてられている。その典型的な例は  
 都立葛西工業高校反戦派教師五名に対する都教委、都教育庁  
 が攻撃した取扱い、全違反、地公法違反として懲戒免職処分であ  
 る。彼等が何をしたというのか? 一部の人間臭に俸位する人間  
 として教師を位置すけよ、というのか? 葛西工生が提起した、  
 工業高校とは何か、高校教育とは何か、の問いかけに、教師や学校  
 当局はこれに答えるどころか、自から思考を放棄することにより  
 生徒を弾圧することのみを専念した。反戦派教師は弾圧する  
 ことでなく、我々が彼等に答えるべきである。そのような取扱い  
 会議の意味がなかつたとしてボイコットした。事態収拾のみ専念し  
 生徒の問いかけを無視し、正常化を果そうとした当局は授業を  
 強引に再開した。反戦派教師は、単なるみかけの正常化は意  
 味ないし、彼等の問いに答えるに上りて授業再開するべきである  
 として授業ボイコットをした。当局は取務命令で授業せよと  
 四回ものドウカツを行った。更に都教育委員会は一月五日授業  
 を持ち、反戦派教師に対して一月二日懲戒免職をいわれたというとし  
 たが、この懲免決定をいわたしを延期させたことに戒鞭した。し  
 かし、これは懲免決定を延期させただけであり、次の弾圧は  
 待っている。このような例は葛西工業高校に限らず、  
 なく、広島、神奈川でも10の国際反戦デー、11月16日佐藤訪米  
 阻止闘争でタイホされた教師に対する、退職、定職、処分や、  
 自から生徒を弾圧(日比谷、北浜、青山高等)すべしという事態  
 を発生している。これは、反戦派教師、学生に対する、教育の  
 帝国主義的再編の一貫として行なわれ、ソート・パージ  
 のものである。我々はこの攻撃に耐え、更に今の現在、政府  
 がブルジョアが揮い進めている帝国主義的再編を暴露し、  
 我々の理論の進化と彼等を粉砕するために、テイク・イン討論会  
 を開催したい。自から理論武装するために多数の参加を要請  
 する。

。月日 一九七〇年二月八日午後一時  
 場所 法政大学(飯田橋駅下車)  
 主催 二一十年一に結集実行委員会